

# 継続事業評価調書

## 【砂防事業】

六甲山系グリーンベルト整備事業

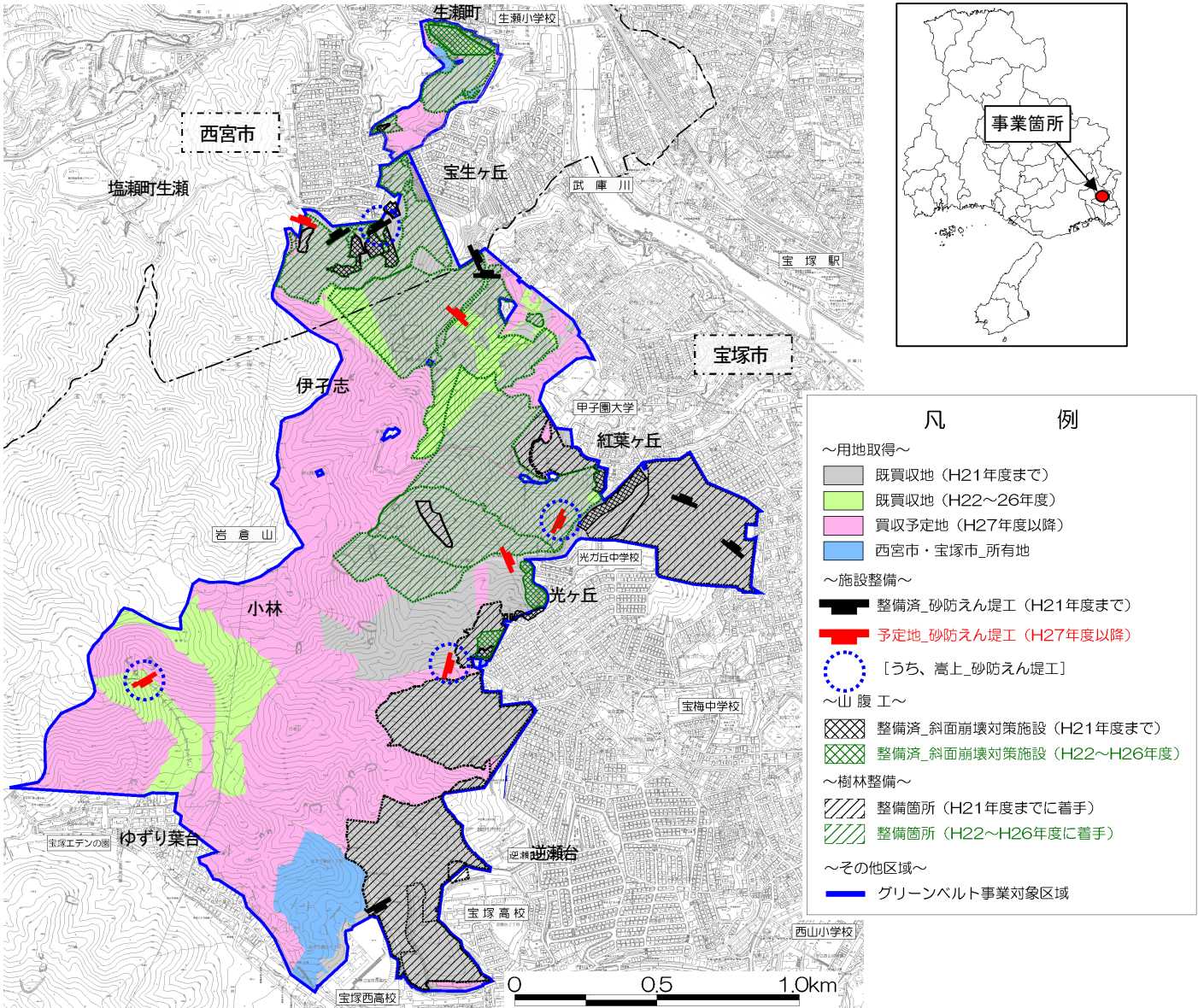
(武庫川ブロック)

県土整備部  
土木局 砂防課

投資事業評価調書（継続：再評価〔第3回〕）

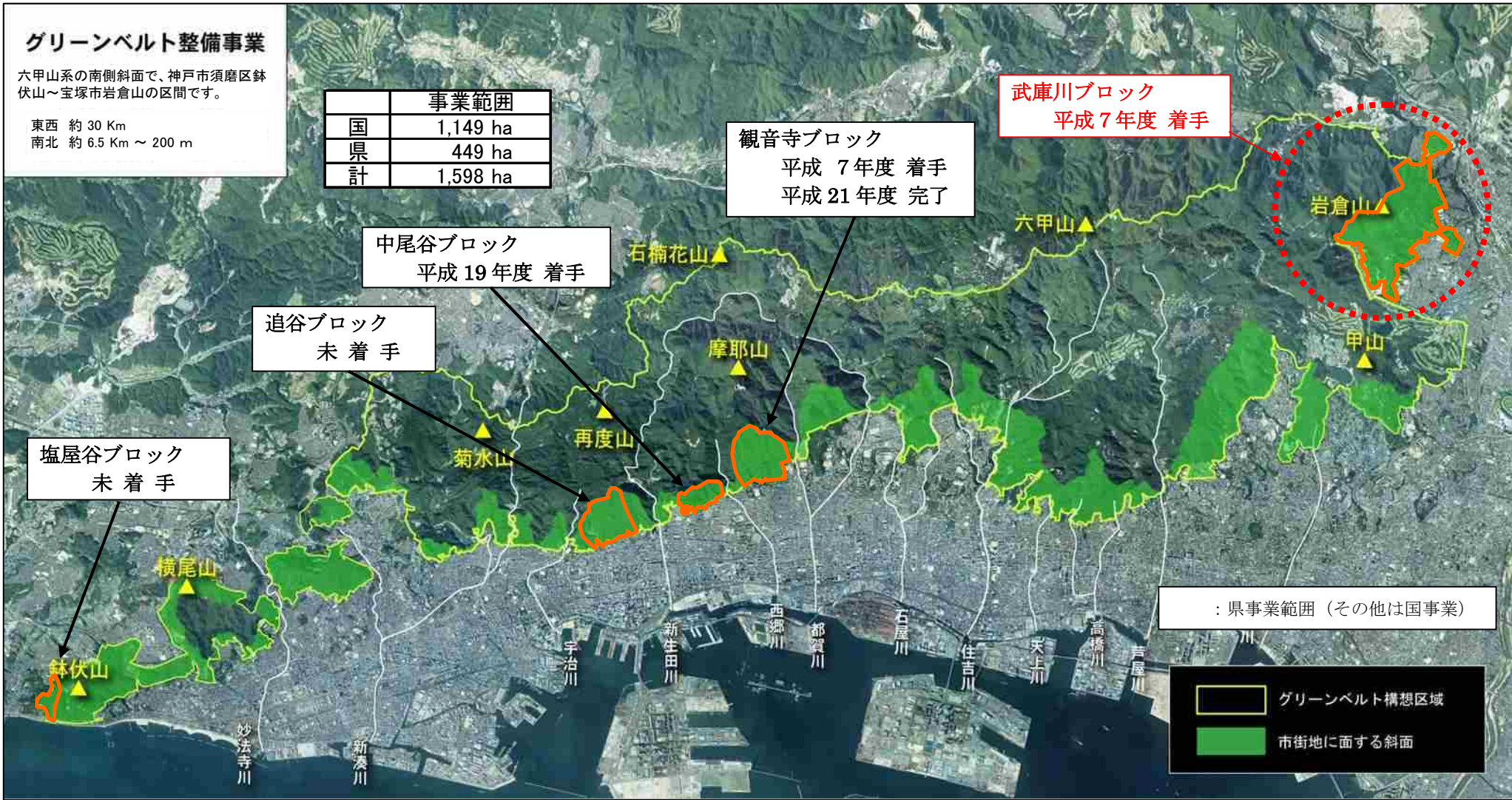
部課室名	砂防課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	砂防課長 市川 和幸 (肥田 憲明)	内線	4459 (4467)
事業種目	砂防事業	新規評価年度	—	今回評価	前回評価
事業名	六甲山系グリーン バル整備事業 (武庫川ブロッカ)	事業採択年度	H 7	総事業費	255 億円
		着工年度	H 7	内用地補償費	185 億円
		再評価年度	H 2 1	完成予定年度	H 4 1
事業区間	西宮市塩瀬町生瀬 宝塚市小林 他 地内	進捗率 (内用補進捗率)	7 4 % (60%)	6 5 % (48%)	
		残事業費	67 億円	88 億円	
事業の目的				事業内容：前回評価時点と変更無	
表六甲山系の市街地を土砂災害から保全する。阪神・淡路大震災時に、六甲山系に多数の山腹崩壊が発生したため、従来のコンクリートを主体とした施設整備に加え、良好な樹林による防災樹林帯の面的な整備により土砂災害を防止する。				全体面積 2 6 5 ha 樹林整備 2 5 0 ha えん堤工 1 3 基 山腹工 8 . 0 ha 〔負担割合 国：50% , 県：50% 〕	
事業を取り巻く 社会経済情勢 等の変化	地球温暖化に伴う異常気象による記録的な豪雨が多発しており、今年には本県丹波市や広島市で大規模な土石流災害により甚大な被害が発生した。表六甲山系では山裾まで都市化が進行しており、土砂災害が発生した場合には甚大な被害が発生する可能性が高く、土砂災害対策の必要性は依然として高い。 【前回評価時点からの事業計画の変更概要】 前回評価時点と変更なし				
進捗状況	① 樹林整備 250ha のうち、118ha を整備中。(うち 45ha は住民参加の森づくり) ② えん堤工 13 基のうち、7 基を整備済。 ③ 山腹工 0.8ha を整備し、8.0ha の整備を完了。 ④ 買収予定面積 250ha のうち、150ha を取得済。				
評価視点	評価結果の説明				
審査会意見及び 対応方針 (H21再評価)	【審査会意見】継続妥当		【対応方針】		
(1) 必要性	① 平成 17 年から実施している「住民参加の森づくり」に対する住民の参画を進める。 ② 防災樹林帯の整備・管理方法について専門家の意見を取り入れ、ノウハウの蓄積に努める。				
(2) 有効性 ・効率性 (執行環境状況)	① 3 団体により約 45ha で「住民参加の森づくり」による樹林整備を継続して行っている。 ② 審査会の意見を受け、西宮・宝塚それぞれの市域において、樹林整備計画を策定し、H23 年度より森林連組合等の専門家により防災樹林帯の整備・管理を実施している。今後は整備後のモニタリング調査を実施し、ノウハウの蓄積を図っていく。				
(3) 環境 適合性	① 六甲山麓は、崩れやすい地質・急峻な地形を呈し、山裾まで都市化が進行しており、学校や集合住宅が急峻な斜面に近接して立地している。 ② 昭和 13、42 年災害を契機として六甲山麓における砂防えん堤の整備は進んだが、平成 7 年の阪神・淡路大震災により多数の山腹崩壊が発生した。 ③ 近年記録的な豪雨により全国的に土砂災害が頻発している。 以上から、土砂災害の危険性は依然として高く、災害発生時の被害は極めて大きい。				
(4) 優先性	① 事業に必要な施設敷を買収することにより、無秩序な市街化を防止するとともに、防災樹林帯の整備により、良好な都市環境、風致環境、生物の多様性を保全する。 ② 事業に取り組むべき範囲を明らかにするため、事業区域を「防砂の施設」として都市計画に位置づけている (H10.7)。 ③ 樹林整備にあたっては、住民の防災意識の高まりを背景に、地域の里山として、幅広い市民の参画と協働によって取り組む「住民参加の森づくり」を実施している。				
再評価 の結果	妥当	理由	事業の必要性は事業採択時と変わっておらず、人口・資産が集中する市街地を土砂災害から守るため継続して事業を実施する必要がある。		

事業進捗状況概要図（継続：再評価〔第3回〕）

事業名	六甲山系グリーンベルト整備事業	路線・河川名	武庫川ブロック
 <p><b>凡 例</b></p> <p>～用地取得～          ■ 既買収地 (H21年度まで)          ■ 既買収地 (H22～26年度)          ■ 買収予定地 (H27年度以降)          ■ 西宮市・宝塚市_所有地</p> <p>～施設整備～          ■ 整備済_砂防えん堤工 (H21年度まで)          ■ 予定地_砂防えん堤工 (H27年度以降)          ○ [うち、嵩上_砂防えん堤工]</p> <p>～山腹工～          ■ 整備済_斜面崩壊対策施設 (H21年度まで)          ■ 整備済_斜面崩壊対策施設 (H22～H26年度)</p> <p>～樹林整備～          ■ 整備箇所 (H21年度までに着手)          ■ 整備箇所 (H22～H26年度に着手)</p> <p>～その他区域～          ■ グリーンベルト事業対象区域</p>			
事業進捗状況・予定		整備効果	
<b>全体</b> (H7～H41年度)	<b>【事業費＝255億円】</b> ・ 樹林整備 250ha、えん堤工 13基 [うち嵩上4基]、山腹工 8.0ha、用地買収 250ha	市街地に面する斜面から用地買収を行い、えん堤工・山腹工などを実施しており、土砂災害に対する安定度が向上した。	
<b>前回再評価まで</b> (事業採択～H21年度) <b>【実績】</b>	<b>【事業費＝167億円】</b> ・ 樹林整備 55ha、えん堤工 7基 [うち嵩上1基]、山腹工 7.2ha、用地買収 121ha		
<b>過去5年間</b> (H22～26年度) <b>【実績】</b>	<b>【事業費＝21億円】</b> ・ 樹林整備 63ha、山腹工 0.8ha、用地買収 29ha	県の施設整備の実施に合わせ、住民参加による樹林整備を継続し、更に安全度が高まった。	
<b>今後15年間</b> (H27～41年度) <b>【予定】</b>	<b>【事業費＝67億円】</b> ・ 樹林整備 132ha、えん堤工 6基 [うち嵩上3基]、用地買収 100ha	住民参加による防災樹林帯の完成を図り、山麓市街地の土砂災害に対する安全度を向上させる。	
<b>今後10年間の整備目標</b> (H27～36年度)	<b>【事業費＝45億円】</b> ・ 樹林整備 100ha、えん堤工 6基 [うち嵩上3基]、用地買収 70ha	用地買収・樹林整備進捗率88%以上を目標とし、えん堤工等の施設整備を完了させる。	



# 六甲山系グリーンベルト整備事業全体計画

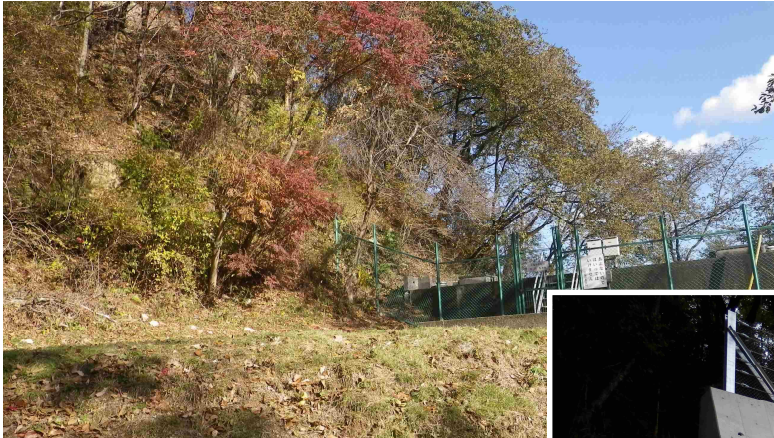




# H22～26 までの施設整備状況

## 《山腹工》

### 【宝塚市光ヶ丘・山腹工】



山腹工施工前



[H26 年度完成]  
人家裏にある急斜面からの崩壊土砂や落石より人家を守る。

### 【宝塚市光ヶ丘・山腹工】



山腹工施工前の状況  
土砂災害の恐れがある斜面



[平成 23 年度完成]  
山腹工施工直後の状況



[平成 26 年]  
緑の復元した現在の状況

周辺には景観保護を目的に現存の樹林を保全した斜面の崩壊対策を採用



山腹工施工前の状況



[平成 23 年度完成] ノンレーム工法  
対策後も現存の樹林が残り、景観を損なわない

